

米原歴史文化街道

米原市の歴史・文化財を歩く

127

米原市の石塔①

―宝篋印塔―

石造物のまちまいばら

近江の石の文化財(石造物)の数と種類はおびただしく、ほとんどの集落では「石のお地藏さん」として、村の入り口や路傍にある身近な存在です。集められたお地藏さんのなかには、地藏菩薩や阿弥陀如来を刻んだ石仏のほか、丸や四角、三角の形状をしたものがあり、これらは、五輪塔や宝篋印塔、なかには層塔とよばれる石塔がばらばらになった部材です。これらは、それぞれの集落に生きた人々の暮らしや、信仰の心を探る手がかりです。また、一般の農山村には、歴史を物語る古文書も少なく、郷土史の空白を埋める大切な資料にもな



▲京極満信墓

ります。

伊吹山や霊仙山に、多くの山寺が開いた米原には、仏教の教義にそった信仰に伴う石の文化財があります。また、京極氏や大原氏の拠点であり、交通の要衝であることから、歴史上の人物に関わる石造物もあります。さらに、数百年にわたって石の加工をおこなってきた歴史をもつ曲谷集落があるのも米原です。「生産地」と「消費地」をもつ米原は石造物のまちなのです。

市内の優品

今回は宝篋印塔を紹介します。この塔は中国を起源とし、宝篋印陀羅尼經



▲星川塔

を納めたことからこの名がありますが、多くは、大日如来を囲む四仏を刻む密教の塔として、追善、墓塔、供養塔として建立されました。笠の四隅の馬の耳のような隅飾が特徴で、近江では基礎の格狭間に三本の蓮をあしらいます。市内には、中世でも古い段階の宝篋印塔があり、京極満信の墓(長岡/市指定)のように、集落のなかになにげなくとけ込んでいます。また、京極氏歴代の宝篋印塔が並ぶ「京極家墓所」(国指定)は、中世から近世にかけての大名墓として全国唯一のものです。

市内の宝篋印塔の優品を紹介しましょう。朝妻神社の星川塔(朝妻筑摩/市指定)は、天野川の七夕伝説に関わる石塔で、装飾性が乏しく、基礎の輪郭の刻みが浅く、幅が狭い点など古い様相がみられ、県内での初期宝篋印塔の展開や地域史を語る貴重な資料です。平野神社の宝篋印塔(弥高/市指定)は、もともと伊吹山中腹の弥高寺跡にあつたと伝えられています。欠けることな



▲平野神社塔

く完全に整ったスリムな石塔です。弥高寺跡にも宝篋印塔があり、やや寸詰まりで一部を欠きますが、北近江最大級のものです。

鎌倉幕府の初期、公家政権の実権を握った後鳥羽上皇は、建久一〇年(一九九)と承久二年(一二二〇)の二度、北近江を訪れています。市内にはその足跡がのこり福田寺に供養塔があります。

北畠具行は、鎌倉幕府倒幕を目指した後醍醐天皇の重臣で、元弘の乱(一二三二)で敗れ柏原で斬首されました。その墓(清滝/国指定)には貞和三年(一三四七)の銘文があり、死後一六年后に介錯を務めた田見六郎左衛門尉により建てられたとされます。光明院の宝篋印塔(加勢野/市指定)は、大原氏第三代時綱の墓とされます。近くの志賀谷薬師堂の背後にも一基の宝篋印塔があります。春のひととき、市内の石塔を巡ってみてはいかがでしょうか。

(歴史文化財保護課)



▲大原時綱墓